

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(11月19日～11月25日)

2019年11月27日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 日本政府、ゴメリ州において草の根・人間の安全保障無償資金協力案件の供与式を実施。(11/20～21)
- 連合国家閣僚評議会、ロシア・ベラルーシ統合問題に関する協議を実施。(11/19)
- ルマス首相、欧州復興開発銀行・東方パートナーシップ投資サミットに出席。(11/22)

大統領動静

- アラブ首長国連邦(UAE)投資会社 Emaar Properties モハメド・アリ・アラパール会長と会談(11/21)

両者は、経済産業面における両国の協力に関連し、具体的な案件を協議した。具体的な協議内容は、非開示。

(11/21 大統領府公式サイト)

- 政府用通信回線に関する会議の実施(11/21)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・先日、国家保安委員会等、通信防護に携わる機構の作業を管理する意向を表明し、その後、多くのことがなされた。大統領の机には自国製の固定通信があり、その他政府要人も悪くはない固定通信を保有している。

・我々が、他国の諜報には手が届かない自国の通信システムや暗号情報センターを保有しており、独立しているという点が非常に大切である。

・多くのことがなされたが、全てではない。携帯通信については現在検査段階である。

・我々が作り上げた通信防護等のシステムは諸外国から敬意を集めている。実際にベラルーシは、他国の政府用の通信を製造した。これには需要がある。そして小さくはない金額である。そのため、本分野に取り組み、我々のシステムを発展させていくことに意味がある。

(11/21 大統領府公式サイト)

外交

- クラフチェンコ外務次官、米国ワシントンを訪問。

クラフチェンコ氏は、国際会議「西欧とベラルーシ、“双方の解放”」に出席し、ジョン・エラト米国国家安全保障局副局長、ドン・シェクルフォンド通商代表補と会談した。

(11/25 ベラパン通信)

- ルマス首相、欧州復興開発銀行・東方パートナーシップ投資サミットに出席。(11/22)

ルマス首相の発言要旨は以下の通り。

・我々は、グリーンフィールド案件であろうが、民営化案件であろうが、投資家を歓迎する。我々には、民営化リストは存在しない。いかなる国営企業も、民営化の対象となりうる。仮に民営化が該当企業を改善し、国家が与えられない新しいものを投資家がもたらさるならば、いかなる国営企業に対する投資案件も検討する。

・投資家の間で、ベラルーシ経済の大部分が国営セクターであり、民営化プロセスはそんなに早くは進まないであろうという懸念がある。10年前ベラルーシ経済の55%が国営セクターであったが、現在は45%である。国家は国営企業の所有者と調整者を分けている。また国営企業においてコーポレート管理の手法が導入されており、民間企業と平等に競争している。

・ベラルーシには投資家にとって良い環境が整備されている。全ての方をベラルーシに招待し、外国人投資家が企業を開き、成功を収めていることを確認してほしい。

(11/23 ベラパン通信)

- リャシェンコ副首相、浙江省訪問(11/20-22)

リャシェンコ副首相は、浙江省杭州市にある自動車

企業 Geely 本社を訪問し、ベラルーシ中国共同自動車製造企業 BelGee の生産拡大、モデル拡張に関し協議を行った。

(11/23 ベラパン通信)

●ルマス首相、アルメン・サルキシヤン・アルメニア大統領と会談

両者は、AI プラットフォームの設立など、二国間共同の IT 事業に関して協議した。

(11/22 ベラパン通信)

●日本政府、ゴメリ州において草の根・人間の安全保障無償資金協力案件の供与式を実施。

ゴメリ州の 3 団体が、日本政府より総額 21 万 72 百ドルにのぼる医療機材の供与を受ける。11 月 20 日、ホイニキ地区中央病院において、気管支鏡、下部消化管管内視鏡の供与式が実施された。11 月 21 日にはゴメリ小児病院、カリンコヴィチ地区中央病院で同様の供与式が実施された。日本政府によるベラルーシにおける草の根支援は 2004 年から行われており、供与額は総額 4 百万ドルにのぼる。

(11/21 ベラパン通信)

経済

【対外経済】

●欧州復興開発銀行 (EBRD)、ベラルーシに下水処理施設改修案件のため、26.8 百万ユーロの融資を決定。

ベラルーシは本案件のため、EBRD からの融資に加え、NDEP (Northern Dimension Environmental Partnership) から 1.5 百万ユーロ、E5P (Eastern Europe Efficiency and Environment Partnership) から 4.3 百万ユーロの融資を受ける。

(11/23 ベラパン通信)

●連合国家閣僚評議会、ロシア・ベラルーシ統合問題に関する協議を実施(11/19)

両国首相は 7 時間以上に亘り協議した。メドヴェージェフ露首相の発言要旨は以下の通り。

・本協議の議題は 14 項目である。

・まず、昨年および今年上半期の二国間経済貿易協力をみていく。両国間貿易高は安定的に成長している。2018 年は前年対比 10%拡大し、350 億ドルに到達した。今年 1~9 月は、統計上 2%減少したが、これは一時的なものであり、年末には修正されると考える。事実、ベラルーシからロシアへの輸出は昨年同期対比 4%拡大している。

・とはいえ、両国の貿易投資関係を抑止する制度的な問題がある。これは、ロシア側の問題でもあり、ベラルーシ側の問題でもある。例えば、補助金制度や融資制度、財務相互関係、国家調達等であり、容易な問題ではない。両国の妥協と譲歩が必要となる。両国にとって平等で良好な環境の組成のための努力が必要である。

・露イノベーションセンター「スコルコヴォ」とベラルーシの IT 産業特区「ハイテクパーク」の相互協力の拡大も必要である。

・両国の前に長く立ちはだかる課題については、「直近 5 年の連合国家発展の優先分野」という重要書類に記載されている。具体的には、輸送統合システム、統一移民空間の形成等である。

・科学イノベーション分野の協力発展において、2023 年までにロスコスモスとベラルーシ国立科学アカデミーによって土壌遠隔探査プログラムが予定されている。

・本年連合国家予算の変更についても準備されている。とりわけチェルノブイリ原発事故被災地域の復興や被害者保護のための経費が増加している。

協議後、両国首相の発言要旨は以下の通り。

1 メドヴェージェフ露首相

・生産的な協議ができた。現時点で、詳細に触れることはない。これらは交渉プロセスであり、文字通り日々両者は歩み寄っている。本協議で合意に至らなかった項目について、ベラルーシ側により今週中に新たなロードマップを準備してもらう。

・最終的には両国大統領に承認してもらう必要がある。これによって両国の法律への修正追加作業を始める

ことができる。これらが出来た時、統合は新たな次元に進んだ、と自信を持って言うことができる。

2 ルマス・ベラルーシ首相

・20 項目のロードマップは署名用意ができています。これまで、ガスや石油の価格決定、商品の国内市場への障壁問題、補助金制度等の製造業者に対する支援条件等、未解決の項目は依然存在してきたが、残すはガス・石油の価格決定関連のみとなった。これらの解決は非常に難しく、両国大統領に委ねられるであろう。

・我々は本日大きく前進した。そして、どこで認識の相違が発生しているかを理解している。更なる協議に向けて 1 週間の猶予を確保した。その後、書類一式を両国それぞれ大統領に提出する予定である。

(11/19 ベラパン通信)

●セリベルストフ・ベラルーシ財務省第一次官、議会で中国からの融資に関して発言。

セリベルストフ氏の発言要旨は以下の通り。

・中国開発銀行による約5億ドルの融資は、2019年に確保できなかったロシア融資の代替となり得る。我々はロシアから融資として確保を計画した金額と同額程度を中国より引き出す予定である。

・融資元多角化政策を行っていること、中国パートナーに対する義務があることを考慮し、中国開発銀行の資金を引き入れることは予算に好影響を与えるであろう。

・今年末の同融資受領を期待している。

(11/19 ベラパン通信)

【国内経済】

●5G 導入に向けトゥルチン第一副首相をトップとした作業グループを組成。

(11/22 ベラパン通信)

●マトゥセーヴィチ経済次官、プレスト州起業家フォーラムに出席。

マトゥセーヴィチ氏の発言要旨は以下の通り。

・我々は、特別な優遇特区の設立等を通じて地域振興に取り組んでいる。一方、銀行セクターも官民間問わずイニシアチブを取っている。そして、エコシステムの創成も新たな伝統になりつつある。プレスト州のテクノパークはその好例である。

・必ずしも各地方に巨大企業を設立する必要はないと考える。中小企業が大きな貢献をしている。商品輸出において中小企業は 50%を占めており、サービス輸出において中小企業は 40%を占めている。

・政府は、行政手続の非官僚化、許認可取得の簡素化、最適なビジネス環境の整備に力を入れ、中小企業支援に向けた形式や方式の完成度を高めていく。

(11/21 ベラパン通信)

●ベラルーシ銀行、2019 年 1~10 月の利益、3 億 4 千万ルーブルを達成。昨年同期対比 4%(14 千万ルーブル)増。

(11/20 ベラパン通信)

●ミンスクの工業生産高、9ヶ月連続減少傾向。

ミンスクの 2019 年 1~10 月の工業生産高は 149 億 88 百万ルーブルであり、昨年同期対比 1.8%の減少。2019 年は 1 月を除いて、2 月以降 9ヶ月連続で減少している。

(11/20 ベラパン通信)

●ベラルーシ、2019 年 1~10 月の工業生産高、昨年同期対比 0.6%増加。

2019 年 1~10 月の工業生産額は 940 億ルーブルと、昨年同期対比 0.6%増加。なお、1~9 月時点の対比においては 0.7%増であり、増加速度は鈍化。

(11/19 ベラパン通信)

軍事・治安

●ベラルーシ国防省、カナダ調査グループの一員として欧州通常戦力条約履行状況確認のためジョージアを視察。

(11/24 ベラパン通信)

(了)